令和７年度地域防災リーダー育成講座「紀の国防災人づくり塾」カリキュラム

和歌山市勤労福祉会館　プラザホープ

		第1時限目	第2時限目	第3時限目	第4時限目	第5時限目	第6時限目
第1日	10月5日（日）	10:00～10:20 開講式 オリエンテーション	10:20～11:20 和歌山県の防災対策 県　危機管理局	11:30～12:30 防災士に期待する活動 日本防災士会和歌山県支部	13:30～15:00 和歌山県沿岸をくり返し襲う津波について 国立研究開発法人　産業技術総合研究所 地質調査総合センター活断層・火山研究部門 総括研究主幹　宍倉 正展	15:10～16:10 和歌山県の洪水・土砂災害対策 県　河川課 県　土砂災害啓発センター	16:20～17:50 防災と減災のむらづくり・まちづくり 和歌山大学システム工学部准教授 平田　隆行
第2日	10月26日(日)	10:00～11:00 津波のメカニズムと南海トラフ巨大地震について 国立和歌山工業高等専門学校教授 小池　信昭	11:10～12:10 災害医療 有田市立病院 島　幸宏	13:10～14:40 和歌山県の気象特性と防災情報 和歌山地方気象台次長 高垣　正治	14:50～18:20 津波避難・避難所運営の ワークショップ 県　危機管理局		
第3日	11月30日（日）	10:00～11:00 和歌山県の住宅耐震化対策 県　建築住宅課 家具類の転倒防止対策 県　危機管理局	11:10～12:10 令和時代に期待される 災害ボランティアの役割 一般社団法人ADI災害研究所 理事長　伊永　勉	13:10～14:40 災害時要配慮者の避難支援 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター 研究員　山﨑　真梨子	14:50～15:50 災害時のこころのケア 県　精神保健福祉センター 性の多様性について 県　多様な生き方支援課	15:50～16:10 閉講式 紀の国防災人づくり塾修了証授与	16:20～17:20 防災士資格取得試験 （申込者のみ）
予備日	12月21日（日）						

令和7年度　地域防災リーダー育成講座「紀の国防災人づくり塾」　講座内容　[別紙]

和歌山県勤労福祉会館プラザホープ(和歌山市北出島1丁目５－４７)

		講　座　名	所　属　等	講師名	講　座　概　要
10月5日（日）	1	開校式 オリエンテーション	県　危機管理局 防災企画課		
	2	和歌山県の防災対策	県　危機管理局		南海トラフ地震などの地震・津波対策を中心に、和歌山県が進めている防災対策の取組について説明します。
	3	防災士に期待する活動	日本防災士会 和歌山県支部		防災士が活躍する場面、防災士に期待される役割等について、防災士会和歌山県支部の事例を用いてお話します。
	4	和歌山県沿岸をくり返し襲う津波について	国立研究開発法人 産業技術総合研究所 地質調査総合センター 活断層・火山研究部門 総括研究主幹	宍倉　正展	和歌山県沿岸は数千年以上もの大昔から、くり返し地震と津波に襲われてきました。その痕跡は現在でも沿岸の地形や地層に残されています。つまり、その痕跡を丹念に調べていけば、過去の地震や津波の実態を解明することが出来るのです。過去の現象を明らかにすることは、将来を予測する上でとても役に立ちます。本講座では最新の調査結果から明らかになった和歌山県沿岸の津波の歴史を紹介し、将来にどのように活かしていくべきかお話ししたいと思います。
	5	和歌山県の洪水・土砂災害対策	県　県土整備部 河川課、土砂災害啓発センター		和歌山県県土整備部で実施している防災・減災対策の概要や、水害や土砂災害から身を守るためのポイントについてお話します。
	6	防災と減災のむらづくり・まちづくり	和歌山大学 システム工学部 准教授	平田　隆行	大災害からどのように立ち直るのか，予測される大災害にどのように備えるのか…。災害とまちづくりの歴史、被災して得た教訓、そして復興まちづくりについてお話しします。阪神淡路大震災では被災直後の街の様子を、復興まちづくりでは、北但地震（城崎）や，東日本大震災，紀伊半島大水害など各地の事例を紹介します。「災害文化」や「事前復興」をキーワードに，和歌山での防災まちづくりを考えていきます。
10月26日（日）	1	津波のメカニズムと南海トラフ巨大地震について	国立和歌山工業高等専門学校 教授	小池　信昭	東北地方で甚大な被害を起こした大津波について、その被害のメカニズムを解説します。また、南海トラフの巨大地震の想定モデルについて、なぜそのような大きな想定になったのか、その経緯を説明します。
	2	災害医療	有田市立病院　病院長	島　幸宏	大規模な災害などで、突然かつ同時に多数の傷病者が発生したとき、いかに効率的かつ適切な医療を提供していくのか。災害発生時の緊急医療対応についてお話しします。
	3	和歌山県の気象特性と防災情報	和歌山地方気象台 次長	高垣　正治	和歌山県は、頻繁に大雨による浸水害、土砂災害、洪水害が発生します。災害をもたらす自然現象の基礎知識、平成23年の台風第12号・平成30年7月豪雨・平成30年の台風第21号等による事例を紹介し、和歌山県の気象特性についてお話します。 また、住民避難に資するよう警戒レベルと対応させた「キキクル」など防災気象情報の利活用についてご説明します。
	4 5 6	津波避難・避難所運営のワークショップ	県　危機管理局		和歌山県オリジナルゲーム「きいちゃんの災害避難ゲーム」をプレイし、グループで話し合います。
11月30日（日）	1	和歌山県の住宅耐震化対策	県　県土整備部 建築住宅課		地震に備えた住宅の耐震化の必要性を説明するとともに、耐震診断と耐震改修の方法及び支援制度を説明します。
		家具類の転倒防止対策 ～家具固定のイロハ～	県　危機管理局		大きな地震が発生すると家具は凶器と化します。家具類の転倒による被害を減少させるため、その必要性や正しい固定方法等の知識や技術をお話しします。
	2	令和時代に期待される災害ボランティアの役割	一般社団法人 ADI災害研究所 理事長	伊永　勉	能登半島地震を契機に、政府・都道府県による専門家チームの派遣や企業・NPOによる避難所への支援が充実してきました。今年度の災害対策基本法の改正で、政府による被災者援護協力団体の登録・派遣という制度も始まり、一般市民ボランティアの活動が変容してきました。令和時代の災害ボランティア活動は、発災直後から中長期の避難所と在宅被災者の支援が重要になることから、市民の地域共助活動を見直し、率先して行動するボランティアの役割を元に、ボランティアの育成の方向性を解説します。
	3	災害時要配慮者の避難支援	阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター 研究員	山﨑　真梨子	高齢の方、障害のある方や乳幼児など、災害発生時の避難に際して特に支援を要する要配慮者（避難行動要支援者）に焦点を当てて、地域の避難対策を検討する上で重要な課題について考えていきます。
	4	災害時のこころのケア	県 精神保健福祉センター		災害発生後、被災者は被災のショックや重大なストレスを受け、通常とは異なる心身の状態を経験します。被災者の心理状態の特徴と被災後の心のケアについての理解を深めます。
		性の多様性について	県　共生社会推進部 多様な生き方支援課		性の多様性に関する基礎的な知識や、性的少数者の方々が抱える悩みや困りごとなどについて説明します。
	5	閉講式 紀の国防災人づくり塾修了証授与	県　危機管理局 防災企画課		
	6	防災士資格取得試験 (申込者のみ)	日本防災士機構		

都合により講師、講義内容が変更する場合がありますので、ご了承ください。